

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K19951

研究課題名（和文）中世ヨーロッパにおけるパネル型聖遺物容器の歴史的展開についての包括的研究

研究課題名（英文）A Study on the Historical Development of Panel Type Reliquaries in Medieval Europe

研究代表者

太田 泉フロランス（OTA, IZUMI FLORENCE）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・助教

研究者番号：50951399

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000 円

研究成果の概要（和文）：盛期中世美術が花ひらいたシャルル5世王（在位1364-1380年）治世のフランス宮廷で制作された小型のパネル型聖遺物容器《リブレット》を中心に、本作に至るまで西欧で制作された同じタイプの聖遺物容器について、様式、図像、機能、意義、素材、技法、注文主の社会的ステータス、作品相互の影響関係等に着目しながら、美術史的位置付けを行った。ビザンティン帝国で制作された聖遺物容器の影響を受けて、西欧中世で制作された作品が、どのような展開をたどったのかを、多くの数の作品をアーカイヴ化し分析することで明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、西欧中世におけるパネル型の聖遺物容器の形式的な展開に主眼を置いて、研究を進めてきた。ともすると個別研究に重点が置かれがちな西欧中世聖遺物容器研究において、本研究の包括的アプローチはある程度の独自性を有しており、一定のインパクトを与えることができていると考えられる。さらに、中世金細工工芸の分野においては、これまで美術史研究者と修復研究者の協働があまり為されてきておらず、成果が互いに共有されてこなかった傾向があるが、本研究においては、積極的な議論や共同作業を通じて、素材の選択や制作時に用いられた技術などについて新たな知見をもたらすことができた。

研究成果の概要（英文）：This study scrutinizes the panel-type reliquaries produced in Western medieval Europe, focusing on the portable reliquary, the so-called "Libretto," which was produced in the reign of King Charles V (reigned 1364-1380), when art flourished in the High Middle Ages. In this investigation, panel-type reliquaries preceding the "Libretto" within Western Europe are subjected to art historical analysis, delving into their stylistic attributes, iconography, function, significance, materials, technique, social status of the patrons, and mutual influence among the works. By archiving and analyzing a large number of reliquaries, we have clarified the formal development of works produced in the Western Middle Ages under the influence of reliquaries produced in the Byzantine Empire.

研究分野：美術史

キーワード：美術史 キリスト教美術 西洋中世工芸史 聖遺物容器 比較美術史

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

申請者は、これまでフランス王シャルル 5 世(在位 1364-1380 年)が注文し長弟のアンジュー公ルイ 1 世に贈った聖遺物容器《リブレット》の研究を進めてきた。その過程で、本作が聖遺物容器であると共に、王族という特権的所持者の個人的祈念にも資するという機能を有する一方で、王権の分与、王族間の紐帯の強化、さらには特権的所持者の身の安全を保証するタリスマン(護符)としての役割などを付与されていたと考えられることから、王権的文脈においては聖遺物容器も世俗的機能を強く保持していることに気付いた。本来宗教的性格を帯びた金細工作品であるはずの聖遺物容器が、王権的文脈においては、単に純粋に宗教的な目的の下に制作されたものではなく、その所有者あるいは注文主の権力と深く関連付けられているケースが多々ある。聖遺物容器が、聖俗のあわいを揺れ動く事物であり得ることは、例えばシャルル 6 世(在位 1380-1422 年)の王妃の注文により制作され、夫君に贈られた「黄金の小さな馬」と呼ばれるエマイユ工芸作品が、やがて王妃の兄の手に渡り、聖遺物容器に改造されて教会に寄進され、現在では収蔵されていた聖遺物が取り出され純粋な芸術作品として人々の鑑賞に供されていることなどからも明らかである。公的礼拝から私的祈念まで幅広く用いられたパネル型聖遺物容器においては、特にこうした聖俗混淆の傾向が強く表れているように思われる。そのため、従来のような教会宝物/世俗宝物という区別に捉われることなく、注文・収集・管理・公開/非公開・略奪・贈与・流通・売買等様々なファクターについて、聖俗両面からの多角的なアプローチを展開することによって、パネル型聖遺物容器の特性を包括的に浮かび上がらせることが可能だと考えた。

また、こうした研究には、金細工作品を制作するにあたり、どのような素材が選択されたのかということについての知見を深化させることが欠かせない。注文主の財力によって、どれほどの素材を使用できるかということに大きな差が出ることは言うまでもなく、個別の容器の使用目的や、その容器が果たした機能によっても素材は変化する。さらには、中世においては素材それぞれに対して象徴的な意味が見出されていたため、パネル型聖遺物の展開についての研究を進めていくにあたり、必要不可欠な要素である。それに対して、聖遺物容器に使用された素材についての包括的研究は未だ充分になされておらず、さらなる探究が求められると思われた。

### 2. 研究の目的

本研究は、聖遺物容器《リブレット》を糸口に、本作に至るまで西欧で制作されたパネル型聖遺物容器について、様式、図像、機能、意義、素材、技法、価格、作品相互の影響関係や文脈等に着目しながら、美術史的位置付けを行う。関心を共有する欧州の美術史家のみならず、修復家や化学者らとも協働しながら、西欧中世金細工研究では十分に活用されてこなかった学際領域の研究蓄積を効果的に活用し研究を進める。中世後期の聖遺物容器にうかがわれる聖・俗混淆の諸相を顧慮しつつ、宗教的意義のみならず、王権と関わる世俗的な諸機能についても、注文・収集・管理・公開(非公開)・略奪・贈与・流通・売買等の様々な要素に着目し、包括的に論じる。それにより、パネル型聖遺物容器の普遍的性質と個々の作例の特性を明確にし、国際的な中世金細工工芸研究の進展に寄与することを目指す。また、取り扱う作例の素材についての調査を行い、それを互いに比較し、そして素材に応じた技術の選択についての個別のデータを集約していくことは、国際的に見ても、パネル型聖遺物容器研究の更なる展開に資すると考えられる。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究は《リブレット》の作品研究を糸口に、本作に至るまでに西欧で制作されていたパネル型聖遺物容器について、その様式、図像及び制作背景、個々の容器が有していた意義や機能などの諸々の側面から分析・分類し、当該タイプの聖遺物容器の美術史的な位置付けを目指した。そのため、まずは関連作品を可能な限り調査し、関連する史資料を収集した上で、データベース(DB)を作成し、包括的分析を進めた。

(2) 申請者は、かねてより《リブレット》の修復が行われたフィレンツェ国立修復研究所(Opificio delle Pietre Dure)の修復研究者達と研究交流、情報交換を続けており、なお進行している修復作業において得られる素材や技法に関わる知見や、画像の提供を受けることができた。特に中世金細工工芸の分野においては、美術史研究者と修復研究者の協働があまり為されておらず、成果が互いに共有されていない面があり、それを取りまとめることで、新たな成果が生まれることが想定された。フィレンツェに一定期間滞在し、上記研究所の研究者達との研究交流を通じて、これまで蓄積されている知見を取りまとめ、《リブレット》をはじめとしたパネル型聖遺物容器の技法・技術面での歴史的展開を明らかにすることに努めた。これまで、パネル型聖遺物容器の歴史的展開を論じる際には、化学的な分析の成果はあまり活用されてこなかったが、本研究はそうした成果を包括的考察の中に取り入れ、文理協働研究的なアプローチをとった。

(3) 具体的には次のような方法で研究活動を行った。すなわち、関連文献資料の博捜、読解、教会および世俗君主の財産目録、あるいは都市共和国の接收文書などを中心とした未刊行の一次史料の収集、読解、金細工工房・金細工師関連一次史料・文献史料の収集、読解、関連作品の実見調査・撮影、これまで紹介されていない作例の収集・撮影、欧州の研究者らとの学際的な情報交換、研究交流、修復研究所での資料・画像の精査である。

#### 4. 研究成果

初年度は、本研究課題についての準備研究を取りまとめつつ、更なる関連文献資料の博捜、読解を上半期に行った。先行研究としては、特に H. Klein, *Byzanz, der Westen und das wahre Kreuz*(2004)や A. Frolov, *Les reliquaires de la vraie croix*(1964)等の精読を通じて、本研究課題で扱うべきパネル型聖遺物容器のリスト化を行い、本研究課題を進めてゆくための素地づくりに注力した。コロナ禍を経て、欧州の図書館・文書館では急速に所蔵資料のデジタル化が進んでおり、欧州に渡航せずとも、一次史料を探することがある程度可能となったため、まずはフランス語圏の14世紀の世俗君主の財産目録をピックアップし、リスト化し、その後本研究課題全体の期間を通じて、少しずつ時代と地域を広げてゆくことで、リストの取り扱う範囲を広げていった。すでに刊行されたものについては、そこから聖遺物容器を抽出し、さらにその中から、パネル型のものにタグをつけてゆくことで、現存してはいないものの、君主のコレクションに含まれていたパネル型聖遺物容器についてのリストを充実させてゆくことができた。

続いて、リストアップした個々の作品が保持し得た機能や意義について、個別に先行研究のあるものについては、それを読解してゆくことで、公的な礼拝に資するものや、個人的祈念の対象となるもの、保持者の権威を補強するものなどを弁別し、先のリスト項目にタグ付けを行い、《リブレット》に至るまでに西欧で制作されたパネル型聖遺物容器群が、世俗的／宗教的コレクションにどのように位置づけられるかを全体的に把握することに努めた。

こうした文献史資料を経て、リスト化した作品について実見調査を行った。とりわけ、クリュニー美術館にて *Tableau-reliquaire : Crucifixion entourée des instruments de la Passion* についての詳細な実見調査、関連資料調査を行うことができ、新たな知見を得られたこと、Opificio delle pietre dureにて修復家、修復科学者らとの意見交換を行い、上半期の成果に対するフィードバックが得られたことは本研究の推進に大きく寄与した。

また文献史資料調査に基づいた作品のリスト化を行うなかで、パネル型聖遺物容器が携帯された事例に注目し、携帯先として、戦場と巡礼路に特に対象を絞って文献資料読解を行った。その中で、特に報告者が学生時代にサンティアゴ・デ・コンポステラへ調査巡礼を行ったことがあり、ある程度の画像資料が手元にあることと、報告者が目下勤務先で従事している業務が日本古来の霊地、熊野に関連するものであることから、両者を比較し、西欧の聖遺物と付随する造形物について、熊野の事例を対象として比較考察する発表“Invitation to Kumano -Activities of Regional Cooperation with Shingu City in Kumano”をニューヨークにて行った。

世俗の君主所有の聖遺物容器調査を進めてゆくなかで、聖遺物により、王権をはじめとする君主の権力が強められ、保証された例が複数浮かび上がり、また、反対に権力者による意図的な演出や伝説の創出により、聖遺物にさらなる聖性が付与され、そのことに聖遺物容器を中心とする造形イメージの力が大きく寄与している事例も散見されることが浮かび上がった。こうした相互の関係については、国際シンポジウム「宗教遺産をめぐる真正性-宗教遺産テキスト学の発展的展開-」で「聖遺物の創出 キリスト教中世における聖性付与の諸相」として発表を行った。

また、この時点までの成果を盛り込み、丸善出版より2024年度刊行予定の『西洋中世文化事典』の「コレクション」の項目を執筆した。

2年度目は、前年度の作業を継続しつつ、更なる関連文献資料の博捜、読解を行い、昨年度に収集した一次史料の読解に上半期を充てた。また前年度に作成した、14世紀までに西欧で制作されたパネル型聖遺物容器についての作品リストは、東西の影響関係に関して系統立てた分類がなされた状態まで至っていなかったため、用途・機能、サイズ、素材、制作された時期、地域、様式、注文主の社会的ステータスなどの情報を各作品のリストに追加しながら、ビザンティンで制作されたスタウロテクと呼ばれる聖十字架の聖遺物容器の中でも、パネル型のものと比較対照した際に想定される影響関係について、ある程度のグラデーションを顧慮しつつ、分類を進めていった。これに並行する形で、前年度にニューヨークで行った研究発表の内容をさらに深化させるため巡礼地、巡礼教会に安置されていた聖遺物容器についての文献調査も進めていった。前年度に引き続き、J. Braun, *Die Reliquiare des christlichen Kultes und ihre Entwicklung*(1940)を定本としつつも、これまで取り上げられてこなかった作品を、特にあまり先行研究で取り上げられてこなかった地域、すなわち中央ヨーロッパを中心に、見過ごされてきた作品を加えながら、作品リストを充実させていった。

夏期休業中に、欧州で作品実見調査を行うと同時に、フィレンツェ大学において開催されたシンポジウム *Dimensioni del sacro tra Oriente e Occidente, convegno internazionale* において、巡礼地で制作されてきた造形作品に着目し、それらを比較宗教美術史的観点から分析した研究発表 *Comparative Studies on Pilgrimage Sites Cases of Santiago de Compostela and Kumano* (「巡礼と造形 - サンティアゴ・デ・コンポステラと熊野の比較」)を行なった。この成果は、フィレンツェ大学出版会による論文集掲載の一論文として刊行予定である。

また、リストを充実させていく中で、素材についての先行研究があまりに限定的なものに留まっていることが判明した。このため、当初の目論見のように十分に、素材と機能、注文主あるいは所有者との関係について分析することが叶わなかったが、特に《リブレット》を中心として14世紀に制作された何点かの聖遺物容器については、修復研究者の助力に多くを負いつつ素材と技法について、未だ取り上げられてこなかった点が明らかになった。素材に関係する諸問題については今後の課題とする部分が大きいが、本課題での成果は、雑誌論文「パネル型聖遺物容器の携帯性をめぐる二、三の考察 《リブレット》の技術的特徴を中心に」として入稿済みである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 太田泉フロランス	4. 巻 21
2. 論文標題 パネル型聖遺物容器の携帯性をめぐる二、三の考察 - 《リブレット》の技術的特徴を中心に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 西洋美術研究	6. 最初と最後の頁 124-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Izumi Florence Ota
2. 発表標題 Invitation to Kumano -Activities of Regional Cooperation with Shingu City in Kumano
3. 学会等名 Invitation to Kumano with Etoki Performance: A Case of Regional Cooperation applying Humanities（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 太田泉フロランス
2. 発表標題 聖遺物の創出 キリスト教中世における聖性付与の諸相
3. 学会等名 国際シンポジウム「宗教遺産をめぐる真正性－宗教遺産テキスト学の発展的展開－」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Izumi Florence Ota
2. 発表標題 Comparative Studies on Pilgrimage Sites Cases of Santiago de Compostela and Kumano(「巡礼と造形－サンティアゴ・デ・コンポステラと熊野の比較」)
3. 学会等名 Dimensioni del sacro tra Oriente e Occidente, convegno internazionale（国際学会）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------